

平成30年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書

団 体 名	一般社団法人横浜若葉町計画	
施 設 名	若葉町ウオーフ	
助成対象活動名	公演事業・人材養成事業	
内定額(総額)	6,348	(千円)
公演事業	3,962	(千円)
人材養成事業	1,773	(千円)
普及啓発事業	613	(千円)

(2) 平成30年度実施事業一覧

【公演事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、 スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	オープニング1周年記念 『影と影との影』	2018年6月1日～6月3日	『影と影と影』 構成・振付：竹屋啓子（若葉町ウオーフ ダンス部門アーティスティック・ディレク ター）	目標値	105人
		若葉町ウオーフ01		実績値	134人
2	若葉町ウオーフ レパトリー・シアター	2018年7月17日 ～2019年3月20日	『清水宏のスタンダップコメディ』 出演：清水宏 『会社の人事2019を読む』 出演：龍昇、塩野谷正幸 ほか	目標値	360人
		若葉町ウオーフ01		実績値	272人
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	465人
				実績値	406人

(2) 平成30年度実施事業一覧

【人材養成事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、 スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	若葉町ウォーフ アーティスト・イン・レジ デンス事業	2018年12月4日 ～2019年3月17日	レジデンス・アーティスト： SATOCO、〈Ship〉実行委員会、シルブ ブレ、関谷春子	目標値	563人
		若葉町ウォーフ全館		実績値	222人
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	563人
				実績値	222人

【妥当性】

自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

若葉町ウオーフに求められている社会的役割（ミッション）のうち、特に以下の3点、

- ・すぐれた専属の実演家による、質の高い創造
- ・実演家・アートマネジメント担当者・舞台技術者・政策提言者の育成
- ・国内外の実演家への発信の場の提供

また、劇場（創造・発信）、スタジオ（交流・育成・創造）、宿泊（滞在・交流・創造）の3つの異なる性格の施設を、同一の建物内に併設しているというユニークな施設構成を利用し、年間のプログラムの企画・実施を行うことができた。

公演事業・人材育成事業のそれぞれにおいて、実施事業内容の精査を行い、予算を縮小し、執行をおこなったため、内定額が交付申請額よりも下回っているが、事業の質、また目標・指標の達成においては、適正な実施であったと考える。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

若葉町ウオーフが所在する地域は、潜在的に恵まれている文化エリアである。その中で、民間のアートセンターとして、行政・地域・民間をつなぎ合わせる活動を行うことが、当館のミッションのひとつである。また、多くの移住民が生活する多様性を持つ地域において、特色のある活動を継続的に行うことが重要であると考えます。

平成30年度の実施事業から、次年度以降に向けて自主企画制作作品のレパトリー化を行うとともに、施設と地域の特色を活かしたプログラムを企画・運営していくことで、本助成に値する活動であると考えます。

【有効性】

自己評価

目標を達成したか。

以下の通り、目標を達成した。

【公演事業】

年間2企画、6演目の上演を通して、

- 1) 若葉町ウオーフ運営メンバーによる自主企画作品の上演
- 2) 優れたスタッフ、キャストとの協働による完成度の高い作品づくり
- 3) 劇場芸術の未来に向かう先進的な作品づくり
- 4) レパートリーシステムの開発
- 5) 入場料金の低廉化
- 6) 地域活性化と連携した中期的活動

の6目標について、当初の目標を達成する成果を得た。

当初指標で掲げた5項目についての実績

- 1) 年間3作品以上の自主企画の実施、およびレパートリー化 / 達成
→自主企画作品6作品の上演
内、2作品(『火曜日の清水宏』『会社の人事』)のレパートリー化
- 2) 入場率80%の達成 / 達成
- 3) 次世代入場者の割合10% / 平均6%程度(学生割引券でカウント)
- 4) アンケート回収率10% / 達成 平均30%
- 5) web媒体を含めたレビューの掲載 10件程度 / 達成 10件以上

【人材養成事業】

民間アートセンターのレジデンス事業についての関心は高く、短い募集期間でありながら、多くの団体・個人からの応募があり、今回は申込みまでには至らなかったが、海外からの問い合わせも数件あった。その中から、将来、若葉町ウオーフのレパートリーとして発信可能な内容・規模・アーティストの個性などを勘案して、パントマイム2件、滞在型ワークショップ1件、コンサート1件を採択し、中・長期、施設に滞在しての作品創作と発表をおこなった。いずれの参加者からも滞在型制作への取り組みの必要性和、今回の事業への評価と感謝を得た。

当初指標で掲げた7項目についての実績

- 1) 年間4団体のレジデンスの受け入れ / 達成
- 2) 全国からの応募件数目標10団体以上 / 達成
- 3) 協力団体(劇場・音楽堂、実演家団体)5団体以上 / 実演家団体2団体
- 4) 入場率80% / 平均70%
- 5) 次世代入場者の割合10% / 平均8%程度
- 6) アンケート回収率10% / 平均15%程度
- 7) web媒体を含めたレビューの掲載 10件程度 / 達成

【効率性】

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

当初計画を基本に、より質の向上と、適正な予算執行を目標としながら、年間の事業を実施・運営することができた。

【事業期間】

○公演事業

平成30年度は、6月のオープニング1周年記念『影と影との影』を皮切りにして、3月に行った新しいレパートリー作品となる『会社の人事』（新作戯曲リーディングパフォーマンス）の上演まで、年間を通じて自主企画制作作品の上演活動を行った。公演の規模は、当施設には適正で、入場者率も当初目標を上回ることができた。劇場のレパートリーが定期的開催されることで、地域の劇場としての役割を果たしていると考えている。

○人材養成事業

公演事業と並行して、滞在設備を活用したレジデンス型の事業も中・長期にわたり開催した。これにより、若手のアーティストたちに施設を有効に活用してもらい、発表の場を提供することができた。

【収支】

それぞれの事業において、施設規模、企画規模に見合う適正な予算執行をすることができた。またチケット料金を安価に設定し、観客層の拡大に努めた。

【創造性】

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

【劇場・音楽堂を象徴する人物、鍵となる人物の存在】

一般社団法人横浜若葉町計画は、若葉町ウオーフの運営にあたり、以下のメンバーで構成している。

エグゼクティブ・ディレクター（館長）： 龍昇
アーティスティック・ディレクター： 佐藤信
ダンス部門 アーティスティック・ディレクター： 竹屋啓子
プロダクション・マネージャー： 岡島哲也
アーティスティック・アソシエイト： 川口智子

上記メンバーが若葉町ウオーフのプログラムについて創造的な観点から企画・運営を行い、専門家がいるアートセンターとして、特徴あるプログラム構成を実現している。

アーティスティック・ディレクターの佐藤信は、2019年（第30回）福岡アジア文化賞 芸術・文化賞を受賞。受賞理由のひとつとして、若葉町ウオーフにおけるアジア交流の成果が認められている。

アーティスティック・アソシエイトの川口智子は、平成30年度若手芸術家支援助成クリエイティブ・チルドレン・フェローシップに選出されており、横浜市を拠点として発信する若手アーティストとして活動をしている。

【専属団体、フランチャイズ団体、提携団体の存在】

提携団体（繋留カンパニー）として、若手演劇団体である「劇団ドクトペッパズ」「演劇ユニットnoyR（ノイル）」の2団体が若葉町ウオーフにて活動を行っている。繋留カンパニーや人材養成事業（レジデンス型）実施にあたっては、舞台技術についての指導・アドバイスも行っている。

人材養成事業において養成対象となったアーティスト4組（パントマイム2件、滞在型ワークショップ1件、コンサート1件）については、今後、劇場のレパートリーを担っていく可能性があり、より広いジャンルと世代のアーティストが自ら発信するアートセンターを目指すことができる。

【創造性】

自己評価

地域の実演芸術の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

【地域のニーズへの資材の投入】

若葉町ウォーフに求められている役割のひとつに「商店街イベントへの参加・貢献」を掲げている。高齢化の進む地域の商店街・町内会のイベントに積極的に参加・連携し、劇場ならではのノウハウ、ネットワーキングを活かした貢献を行った。地域に受け入れられる劇場を目指し、事業企画に頼らない地域の課題発見と解決を目指している。

同時に、劇場のレパートリー事業を継続的に行うことで、地域文化の拠点としての役割を果たしている。また、横浜の演劇人の集まる「横浜演劇サロン」にも会場を提供し、地域の演劇人の交流の一端を担っている。

平成30年6月6日（水） 毎日新聞 掲載

横浜「若葉町ウォーフ」1周年

人引き寄せる芸術拠点に

横浜市中区若葉町の滞在型の芸術創造拠点「若葉町ウォーフ」が開館1周年を迎えた。運営する「一般社団法人横浜若葉町計画」の理事長で演出家の佐藤信さん(74)は、古くからの下町情緒と多国籍の住民が交差する若葉町の可能性にひかれ「人生最後に個人でアートセンターを興したい」と一念発起。資金繰りは厳しいが、新たな芸術拠点は国内外の人を引き寄せ、地域にも根付きつつある。

【堀和彦】

この街を、英国のリバプールのような世界に飛び立つアーティストの出発点にしたい——。そんな思いから、若葉町ウォーフはスタートした。1日、飲食店が集まる若葉町がにぎわい始める夕方、大岡川のほとり、かつては地元の金融機関だった地上3階建ての古風なビルに、演劇ファンや地元の人たちが続々と集まる。1周年を祝う記念公演で、佐藤さん

は入り口で出迎え、50席ほどの客席はすぐに埋まった。築50年のビルは、年季を感じさせない活気がみなぎっていた。

佐藤さんが演劇の世界に入ってから、半世紀がたつ。東京都の世田谷パブリックシアターなどの芸術監督を経て、現在は「座・高円寺」（杉並区立杉並芸術会館）の芸術監督を兼任しながらウォーフを運営する。

国内外の表現者がつながる場所を目指して「波止場」の英訳のウォーフと名付けた。劇場公演のほかにスタジオ利用も多く、国内外から若手アーティストや劇団が訪れる。併設する宿泊施設も好評だという。

公的施設と異なり、ウォーフでは「本当に劇場に来る『個人対個人』の関係を積み上げたい」と話す。日本の演劇界が置かれている現状への危機感もある。世界的にもレベルは高いはずなのに観客は他国に比べ少ない日本の演劇。「演者も客のほうをみていない」と、佐藤さんは分析する。

若手アーティストとの交流が生きがいだ。同世代を見て「自分が人生でやってきたことを還元する場がない」と感じる。この1年、次世代に惜しみなく経験を還元し、「やってきたことは無駄ではなかった」と実感する。

今後は、県内の文化芸術振興政策を推し進める県とも連携を進めるといふ。行政に頼るのではなく「県と民間施設で何ができるか、お互いにアイデアを出しあっていきたい」と話す。

ウォーフでは8月、アジア各国のアーティストが滞在して創作活動を行うほか、全国の小劇場関係者が集う会議も予定されるなど、多くのイベントや演劇公演を予定。「僕はレールを敷いて次世代にバトンタッチしたい。馬力がある今だからできる『終活』です」と話す。

国内外の劇団、アーティストも



若葉町ウォーフの前に立つ佐藤さん。芸術文化の創造拠点として存在感を放つ「横浜市中区」

【持続性】

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

【将来の人事戦略・正規雇用率】

平成30年度の事業実績・経営実績を踏まえ、平成31年度より、新しいスタッフの雇用を行っている。現在、正規雇用のスタッフを含め、施設規模に見合った組織編制で運営を進めている。

【劇場・音楽堂等間のネットワークの形成】

平成30年8月には、「第2回全国小劇場ネットワークミーティング」に会場を提供した。その中で、アーティストック・ディレクターの佐藤が講座を行ったほか、運営スタッフもミーティングに参加し、全国各地の劇場・音楽堂、ユニークな活動を行う民間のアートセンター等とのネットワークの構築に努めた。全国各地で小規模な上演活動を行う演劇・ダンス等の団体からの問い合わせ・利用も増加している。

【継続的なプログラムの実施】

平成30年度、自主企画制作を行った作品のうち2作品を、引き続きレパートリー作品として上演しているほか、繋留カンパニーや人材養成事業における育成対象者が今後若葉町ウオーフのレパートリーを製作・上演できるよう、支援・創造環境の改良を行っている。

【安定的な財源の確保】

若葉町ウオーフの地理的な特性を活かしながら、行政（神奈川県、横浜市）および、地域企業との連携を図り、財源の確保に努めている。小規模ではあるが、地元の飲食業者との連携によるプログラムの実施も始まっており、今後の発展を見込んでいる。